

企業名：日東紡グループ

レポート名：2021統合報告書

1. この会社が目指す姿が理解できるか

日東紡という企業名をはじめ聞いたとき、「紡」の文字が入っていることから、紡績関係の企業なのかと考えた。だが、実際は繊維事業だけではなく、医療事業や、グラスファイバーという電子機器に必要不可欠な材料の生産まで行う幅広く活動している企業であった。

日東紡が目指す姿について、僕は2017～2020年度の間を企業の基盤づくりの期間とし、2020年度以降大きく飛躍することを目標にしているのだと理解した。そのために日東紡は「前中期経営計画」と「新中期経営計画」という目標を掲げた。二つの経営計画について、前中期経営計画は新中期経営計画の前身にあたるもので、2017年～2020年度にかけて取り組まれた。M&Aを含めた568億円の設備投資や、台湾での生産工場の確保などが行われた。そして新中期経営計画では、引き続き経営基盤の強化を目指しつつ、日東紡績の武器であるスペシャルガラスの収益拡大や、人材の育成、さらに近年大きなものとなりつつある環境問題への取り組みを強化することなどを目標に掲げている。また、新中期計画では高感度No1の企業を目指すことも述べている。これは、市場と顧客のニーズに高感度に対応して日東紡独自のソリューションを提供するというものだった。非常にキャッチーで分かりやすい目標だと思った。

そして日東紡が2030年にありたい姿として掲げる「Big Vision 2030」によってこれらの目標をより具体的な言葉で表し、理解しやすいものになっていると思った。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

- ・ 高度なガラスの加工技術
 - ・ 技術の設計・開発、さらに製品を作るまでのすべてを行うことができる
 - ・ 活動拠点を海外にも抱えているため、グローバル展開をすることができる
 - ・ ライフサイエンス（血清の作成など）、グラスファイバー、繊維業と多岐にわたる事業を展開している
 - ・ 経営陣が社員に気を配ることができている
- 少なくとも以上のことが挙げられる

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

競争優位性の持続性について各3つの事業（グラスファイバー、ライフサイエンス、繊維業）を考えたい。まず、グラスファイバーについて考える。グラスファイバーはプリント配線基板に必要不可欠であることから需要がなくなることはなく、さらに日々研究を重ねる施設を抱えているため、技術革新に遅れることはないと思われる。さらに、統合報告書によ

ると企業は6Gに対応した製品の開発も目指しているようで、持続性は問題ないと思われる。

ライフサイエンスについて、日東紡は対外診断用医薬品で業界トップシェアを確立しており、他にも抗血清を製作していることから、ライフサイエンス業界の持続性は問題ないと思われる。

繊維業について、コロナ感染拡大の影響から売上高は下がっていると述べられている。しかし、営業損失は2016年から発生していることから、繊維業での利益はあまり期待できないものと思われる。よって、持続性は不安視せざるをえないだろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

可能だと思われる。前述の新中期経営計画において、人材育成も目標に掲げられていた。具体的には次の4つがある。①次世代リーダーの育成、②グローバル人材の育成、③プロフェッショナル人材の育成、④人材育成を促進するマネジメント施策の充実である。①では階層別研修の実施を手厚く行うことで目標を達成しようとしている。②では海外インターンシップ制度、海外研究機関派遣制度、オンライン英会話学習、MBA留学などを行っている。③管理者になるうえでプロフェッショナルになることを目指し様々な研修や、資格勉強のサポートを行っている。④人材育成のためには上司部下間のコミュニケーションが重要であると考え、「1on1ミーティング」を充実させた。また、ワークライフバランスの推進にも取り組んでおり、人材の育成には問題がないと思われる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

僕としては辻社長のインタビューが分かりやすく、辻社長の社員へのビデオメッセージを行ったところは感動した。社員全員に、「新中期経営計画」の理解を浸透させようとする企業への思いが感じ取れた。

自社の弱点やなぜ損失が生まれているのかという点を分析しており外部環境分析は問題ないと思いました。